

看護大学生の進路選択に影響する情報と支援ニーズ —卒業を間近にした看護学部4年次生への調査—

大塚 眞代・古米 照恵・藤野 文代

キーワード：看護学生、進路選択、キャリアニーズ

I. はじめに

看護大学生（以下学生と示す）の就職や職場の選択は、看護師の雇用に関する需給見通し¹⁾をみても有利な状況にある。しかし、新人看護師の離職状況²⁾からは、学生が希望通り就職しても就業の継続は必ずしも容易ではないことが窺える。離職の要因には、リアリティショック、職場での人間関係、看護職者としての適性への不安などがあり、その背景には学生時代の職場選択の動機、看護実習の経験、進路指導の在り方が影響しているとの指摘も存在する^{3) 4)}。

こうした状況から、看護基礎教育の養成機関としては、学生が迷わずに就職先を選択でき、看護師への移行がスムーズに行える支援を検討することは重要であると考えられる。A大学看護学部では、学生が自律的な進路決定を図れるよう、1年次よりキャリアガイダンス、就職説明会、教員による個別指導などを行っている。しかし、学生が進路選択にあたり、どのような悩みを抱え、支援を必要としているのか、学年ごとの特徴は把握していない。

そこで、本研究では、卒業を間近にした4年次生を対象に、進路選定に影響した情報、就職に対する不安、将来設計と支援ニーズを調査し、その実態を明らかにすることを目的とした。

II. 研究方法

1. 調査対象・調査時期

調査対象はA大学に在籍する看護学部4年次生、調査時期は、国家試験が終了し就職を約1か月後に控えた平成25年2月～3月に行った。

2. 調査内容・データ収集方法

調査内容は、看護学生の就職・進路選択、キャリア志向に関する先行研究^{5) 6) 7)}を基に、(1)対象者の特性（年齢、性別）、(2)入学時の進路希望、(3)卒業後すぐの進路、(4)進路決定に影響した情報源を問う11項目、(5)就職先決定時に重要視したことを問う10項目、(6)就職に対する不安、(7)就職後の将来設計を問う9項目、(8)支援の要望から構成した。

進路希望は、A大学で資格取得可能な資格・免許（看護師、保健師、養護教諭）と進学（助産師課程と大学院）、その他を選択項目とした。回答は、選択回答式質問と自由回答式質問で尋ね、進路決定に影響した情報源および重要視した項目は、重複回答で求めた。

調査依頼は、卒業研究発表および卒業式典に関する打合せで大学に来ていた学生に、その終了後集まってもらい一斉に行った。調査票は回収箱への投函により回収した。

3. 分析方法

対象者の年齢、就職・進学、将来設計の選択回答については記述統計量を求め、自由回答は具体的な表現で意味がわかるものを1記録単位とし、内容の類似性に基づき分類し数量化した。統計処理はエクセル統計2012を用いた。

4. 倫理的配慮

A大学看護学部長に、研究の主旨と方法を文書にて示し、研究の協力を依頼した。調査対象者には、研究者が所属する施設の研究倫理規定に則り、①調査の目的・方法、②研究参加の判断は任意であり、参加の有無に関わらず不利益は被らない、③成績評価には関係しない、④個人が特定されない、⑤研究結果は学会や学術雑誌で発表する、⑥回収した調査票は厳重に取り扱い、研究終了後は破棄する、⑦調査票への回答をもって同意を得られたものとするを、文書に示し口頭で説明した。

調査票配布後は、強制回収を避けるため教室からすぐに離れた。

Mayo Ootuka
Terue Furumai
Fumiyo Fujino
関西福祉大学看護学部

本研究は、関西福祉大学看護学部倫理審査委員会の審査を受け、承認を得た後に実施した。

Ⅲ. 結果

研究依頼をした70名のうち、48名の学生から回答を得た（回収率68%）。このうち、調査票の選択を問う項目に回答していないものを除いて、42名（有効回答率87%）の回答を分析の対象とした。対象の属性は、女性34名、男性8名、年齢は21歳から23歳で平均年齢21.9歳（SD1.0）であった。

1. 入学時および現時点での進路希望

対象者の入学時の進路希望は、看護師31名（77.5%）、保健師2名（5%）、養護教諭4名（9.5%）、進学4名（9.5%）、未定1名（2.3%）であった。卒業後の進路は42名すべて看護師で（100%）、11名の学生が入学時の希望を変更していた。

2. 就職活動で活用した情報源と役に立ったこと

進路決定に影響した情報源については、優先3つを選択回答で求めた。その結果、職場訪問による説明会18名、学外での就職説明会12名、大学のキャリア開発室8名、病院のホームページ8名、学内の就職説明会7名、先輩5名、講義・実習4名、教員3名、親・兄弟1名、就職雑誌や広告1名の回答があった。

役立った内容として、職場訪問や就職説明会では、「自分の知りたい質問が直接できる」「多数の病院の説明を聞くことで比較ができた」「職場の雰囲気がわかる」「先輩の話が聞け、看護師になってからのことを知れた」等の回答があった。病院のホームページでは、就職説明会や試験日程がわかること、働きたいエリアを選んで探せる利点をあげていた。また、学内のキャリア開発室では、「就職試験の内容」や「履歴書の書き方」「面接の練習」が就職試験に活用できたとの回答があった。

3. 就職先を決定する時、重要視したこと

学生が、就職先を決める時に重要視したのは、「継続教育・教育環境の充実」19名が多く、次いで「職場の所在地域」16名、「給与・福利厚生」15名、「興味ある看護ができる」11名、「看護師・医師・職員の対応が良い」11名、「奨学金制度」11名、「プリセプター制度」10名、「友人・先輩が就業している」6名、「実習での経験」4名の順であった。

表1. 情報源で役に立ったこと

情報源	具体的な内容
就職説明会	病院関係者が説明してくれるのでイメージがたった
	先輩の話が聞け、看護師になってからのことを知れた
	多数の病院の説明を聞くことで比較ができた
	人気の高い病院がわかった
	自分に合った病院を見つけやすい
	ホームページでわからないことが直接聞けた
職場訪問	学内であると行きやすい
	自分が知りたい質問が直接聞けた
	病院や職場の雰囲気がわかった
	病院の理念や教育内容がわかった
	直接行くと、思っていたところや違いがわかって良かった
	仕事の内容を看護師から実際に聞けた
学内キャリア開発室	履歴書の書き方
	先輩の意見や資料
	就職試験の内容
病院のホームページ	面接の練習
	就職説明会や見学の日程がわかる
	病院の全体的なイメージがわかる
講義・実習	働きたいエリアを選んで病院を探せる
	実習に行って医療者の雰囲気がわかった
	新人看護師への指導がどのように行われているか知ることができた
先輩	慣れた実習先の方が就職後すぐにとけこめると思った
教員	就職先での体験談や看護の情報が聞けた
	奨学金制度について説明を受けた

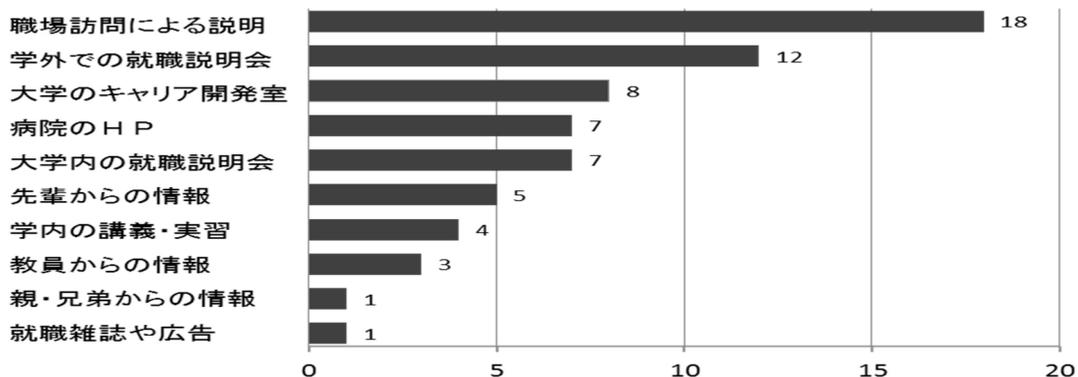


図1. 就職活動で活用した情報源

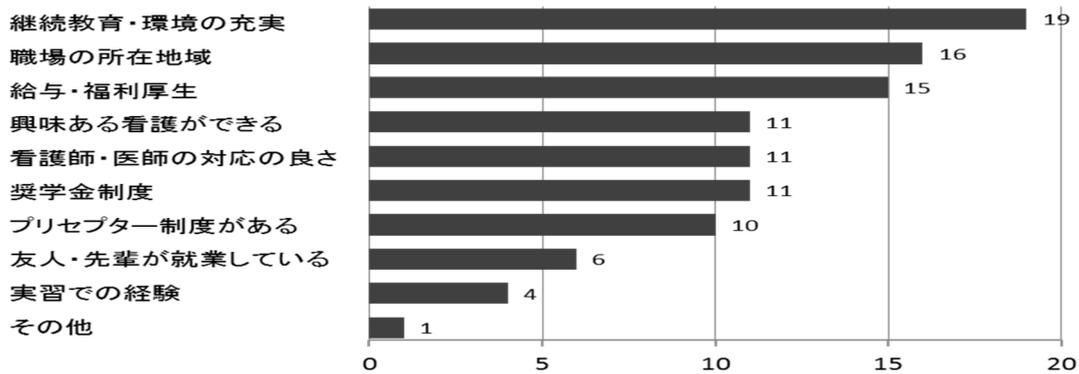


図2. 就職先を決定する時、重要視したこと

4. 就職についての不安

就職への不安を問う項目については、32人が自由回答した。66記録単位が抽出され、8項目に分類できた。不安内容は「職場の人間関係」25記録（37.8%）、「看護師としての適性」13記録（19.7%）、「技術の経験不足」7記録（10.6%）、「知識不足」7記録（10.6%）、「同期入職者との差」4記録（6.0%）、「今後の勉強方法」4記録（6.0%）、「親元を離れること」4記録（6.0%）であった。

「職場の人間関係」では、職場の人や雰囲気にも馴染めるか、うまく関係を築いていけるのか等の回答があった。「看護師としての適性」では、看護師として本当にやっていけるか、よい看護が提供できるのか等、看護技術の不安と相まって、看護師としての適性を按ずる回答があった。

5. 将来のキャリア計画

就職後にキャリア計画があると回答した学生は28名であった。認定看護師15名が最も多く、次いで専門看護師10名、看護部長や係長などの管理者4名、助産師3名と、特定分野の資格取得志向がみられた。その他、臨床実習指導者6名、看護教員2名、大学院への進学2名、看護以外の分野で学びたい4名であった。

希望の多かった認定看護師の分野では、救急看護4名、がん性疼痛看護2名、皮膚・排泄ケア1名、緩和ケア1名、訪問看護1名、認知症看護1名、慢性呼吸器疾患看護1名であった。また4名の学生は、複数の分野を希望しており選択を悩んでいた。専門看護師の分野では、急性・重症患者看護4名、在宅看護2名、がん看護1名、慢性疾患看護1名、小児看護、精神看護1名であった。

表2. 就職への不安

分類	具体的な内容	記録単位 (%)
職場の人間関係	人間関係	14
	就職先の人や先輩NSたちとの関係をうまく築けるのか	9
	職場に馴染めるのか	1
	どんな雰囲気の職場か不安	1
看護師としての適性	看護師として本当にやっていけるのか	6
	その病棟が自分にあっているのだろうか	2
	この仕事は自分に合っているのか	2
	患者さんに良い看護が提供できるのか	2
	離職せずに、ちゃんとやっていけるのか	1
技術の経験不足	技術が不安	5
	実習では一人受け持つのに精一杯だったのに、多数の患者に援助できるか心配	2
知識不足	知識面が不安	4
	知識不足が心配	3
同期入職者との差	他大学や専門学校卒業生と差があるのでは	2
	他の子に比べて劣っているのではないか	2
今後の勉強方法	就職して、何を勉強していけばいいのか	3
	国試が終わって就職まで何をしたらいいのか	1
親元を離れること	親元を離れること	2
	一人暮らし	1
	ホームシックになるのでは	1
勤務形態	業務前後の超過勤務はあるのか	1
	勤務によって生活リズムが変わるのでは	1

6. 在学中および卒業後の支援・要望

就職・進路に関する支援には、20名から25記録単位の自由回答があった。在学中の支援では、就職説明会の開催と情報提供に関して12記録あり、「参考になったので今後も続けてほしい」「3年生の冬休み、春休みにしてほしい」「県外の病院からも来てほしい」などの要望があった。また、教員に対しては、就職前の技術練習や就職相談を希望する意見もあった。卒業後の支援については、相談相手になってほしいという要望が多かった。

IV. 考察

1. 就職先選定にまつわる要素

学生が就職選定に活用した情報源は、就職説明会や職場訪問による説明会、ホームページ情報であった。学生は、職場の雰囲気や新人看護師の実態を一番に知り得たいと考えており、直接見聞きできる方法を活用していたと考えられる。また、今回研究対象となった学生は、入学時から看護師になることを決めており、将来像に対する関心が「自ら聞く」という能動的な行動にも影響したのではないかと考える。

次に、職場選定時に重要視したのは「継続教育の充実」「職場の所在地」「給与・福利厚生」であった。大卒看護師の職業選択の動機に関する先行研究においては、職場の雰囲気、教育システム、休暇、給与など優先しており^{6) 7)}、本研究も同様に、上位項目において高い割合を示していることがわかった。

一方、就職に対する不安では、「職場の人間関係」、「看護師としての適性」、「知識や技術」などがあつた。就職間近にある学生は、新たな環境や人への適応に強いスト

レスを感じやすく不安が増強する^{7) 8)}との指摘もある。学生は、実習を通して対人関係を円滑にする社会的スキルを高める^{9) 10)}一方で、対人関係で苦勞した状況下での対処法や苦手意識が社会的スキルにおいて負の影響要因であることが報告されている¹¹⁾。

今回の調査では、就職の不安原因について回答を得ていないが、人間関係に不安を抱くような経験があつたとも推察される。更にこの時期は、就職という現実を前にし、自己の課題がより明確になる。もっと良い看護を提供したいと思う理想と、現実とのギャップが、看護師としての適性や知識や技術への不安を一層高めているのではないかと考える。

学生にとって、他者との関係性の持ち方や看護技術の獲得は、看護師としての適性を左右する因子であり、職場の雰囲気は就職を決定する重要な要素であることがわかった。

2. キャリア計画と支援の在り方

本調査において、看護師として就職した後に専門看護師や認定看護師などのスペシャリストを志向する学生が6割いた。学内の講義や研修、実習を通して話を聞く機会も増え、身近な存在になっているとも考えられる。また、就職先を選定する際に重要視した項目には、継続教育や興味ある看護ができることをあげていた。これは、将来の自己像を見据えその実現化に向けて、キャリアアップのためのシステムや看護モデルの存在を期待していることを示していると思われる。

在学中の支援では、就職説明会は継続してほしい、就職前に看護技術の指導や授業を望む意見が多かった。就職先をイメージしやすい情報提供、学生の希望する時期

表3. 就職・進路に関する支援への要望

	在学中の支援	記録単位
1. 就職説明会の開催・情報提供		
学内の合同説明会は参考になったので、今後も続けてほしい		3
県外の病院も学内の就職説明会にきてほしい		3
3年生の実習後（冬休み、春休み）に就職説明会をしてほしい		2
先輩がどこで働いているかの情報提供してほしい		1
どのように病院をきめていったらいいか、働いている人から聞く場があればいい		1
病院のパンフレットが気軽に見れるところ（看護棟）にあつたら嬉しい		1
学外で行われる就職説明会の情報がほしい		1
2. 教員からの情報提供と指導		
就職前に技術の練習や確認をしたい、技術の授業をしてほしい		4
アカデミックアドバイザーの面談時に、就職について相談にのってほしい		3
就職に関する情報提供があると嬉しい		3
4年生前期に面接の指導をしてほしい		2
就職についてどのように考えているか声をかけてもらうだけでも、嬉しい		1
	卒業後の支援	
1. 相談相手になってほしい、話をきいてほしい		8
2. アカデミックのような環境があればいいと思う		1
3. 図書館の利用		1

に合わせたガイダンスや看護技術の指導など、在学中の支援方法を検討する必要があると考える。

卒業後の支援では、「何かあったら相談にのってほしい」との要望があった。新人看護師のリアリティショックには相談相手の存在が関与しているとの報告もある¹²⁾。また、新人看護師が入職1か月～3か月目において「欲しい支援」として、教員や同級生との繋がりを挙げており¹³⁾、学生が家から通える、母校に近い職場を重要視したことも関係するのではないかと考える。

おわりに

本研究では、学生が進路決定の際、就職説明会や病院訪問などから能動的に情報収集していること、継続教育および教育環境の充実、希望に合致した所在地、所得・福利厚生などを重要視していることがわかった。また、就職を間近にした時期は、職場の人間関係、技術や知識への不安を抱いており、それが大学に要望する支援であることも分かった。具体的な就職情報や技術力を確認する場を提供すること、卒業後も相談の窓口を設ける必要性が高いことが示唆された。

今回の調査は、対象者が少なく限られていることから、4年次生の特徴を明らかにするには至っていない。今後は対象者を増やし、学年ごとの特徴や進路決定のプロセスに影響する要因の分析を縦断的に行っていきたい。

本研究にご協力下さいました学生の皆様に、深く感謝申し上げます。

文献

- 1) 厚生労働省：第七次看護職員需給見通しに関する検討会報告書，平成22年12月21日。
- 2) 社団法人日本看護協会：2012年病院における看護職員需給状況調査News Release, p1-6, 2013.
- 3) 塚本友栄、舟島なをみ：就職後早期に退職した新人看護師の経験に関する研究－就業を継続できた看護師の経験との比較を通して－，看護教育学研究, 17(1), 22-35, 2008.
- 4) 田島真智子：新人看護師の離職意思と職業志望動機の関連，日本看護学会論文集看護教育, 192-195, 2012.
- 5) 大井千鶴、舟島なをみ、亀岡智美：看護基礎教育課程に在籍する学生の就職先選択に関する研究－病院に1年以上就業を継続できた看護師を対象に－，看護教育学研18(1), 7-20, 2009.
- 6) 原玲子、竹本由香里：看護師として病院に就職することを決定した看護学生のキャリア志向と職業選択に関する研究，宮城大学看護学部紀要14(1), 69-79, 2011.
- 7) 福間美紀、廣野祥子、長田京子他：看護大学生の進路選択と進路支援のニーズに関する実態，島根大学医学部紀要(34), 17-24, 2011.
- 8) 江澤綾：卒業を間近にした学生の将来設計と就職への不安，聖路加看護学会誌10(1), 2006.
- 9) 石光美美子、古谷剛、林美奈子：看護大学生の半年間にわたる臨地実習前後の社会的スキルの変化，目白大学健康科学研究第5号, 61-66, 2012.
- 10) 大塚美樹、雑賀倫子、吉岡伸一：臨地看護学実習前後における看護学生の社会的スキルと共感性の関連，米子医誌Ass62, 183-188, 2011.
- 11) 藤野ユリ子、室屋和子、佐藤一美：看護系大学生四年生の学生生活や対人関係に関する認識と社会的スキル，産業医科大学雑誌, 27(3) 263-272, 2005.
- 12) 糸嶺一郎：大学病院に勤務した新卒看護職者のリアリティ・ショックに関与する要因，日本看護研究学会誌29(4), 63-70, 2006.
- 13) 唐澤由美子、中村恵、原田慶子他：就職後1ヵ月と3ヵ月に新人看護師が感じる職務上の困難と欲しい支援，長野看護大学紀要, 10:79-87, 2008.